

安倍元首相の死に思う

白井聡・京都精華大学国際文化学部准教授

2022 年 7 月 30 日



白井聡氏 = 山田尚弘撮影

安倍晋三元首相が銃撃、殺害されてから 3 週間がたった。いま私は、この襲撃事件から受けた以上の衝撃を、事件後の展開から受けている。何よりも驚くべきは、元首相であり退任後も大きな影響力を持っていた政治家が殺害され、その動機が反社会的活動により悪名高い宗教団体＝世界平和統一家庭連合（旧統一教会）に関連していることが明らかになったにもかかわらず、岸田文雄首相がこの間、統一教会に関して一言たりとも言及していない（7 月 28 日現在）、という事実である。

凶行に至った山上徹也容疑者の動機に不審な点はないと言えるだろう。山上容疑者は、自分の家族と自分自身の人生を台無しにされたことから統一教会に対して強い恨みを抱き、団体の最高幹部を殺害したいと欲したが、それが困難なために、日本における統一教会の最大の守護者であると思なした安倍氏を殺害することにした。

この動機をどう見るか。山上容疑者が統一教会によって深刻な被害を受けたことは揺るぎない事実であるから、安倍氏殺害の動機の解釈は論理的には 2 通りしかあり得ない。すなわち、**山上容疑者が安倍氏を狙ったのは完全な逆恨みであり、とてつもなく錯乱した論理によって凶行に走ったと見なす**のか、それとも、**安倍氏を統一教会の守護者と思なしたことは一定の合理性があったと見なす**のか、二つに一つである。

前者であるとすれば、岸田氏は、首相として、また自民党総裁として、**安倍氏と統一教会につながりがあったとする見方を全力で否定しなければならぬ**。それは故人の名誉にかかわる。後者であるとすれば、これまた首相として、また自民党総裁として、**統一教会と安倍氏との関係、ひいては自民党との関係について、何らかの見解を示さなければならない**。事は安倍氏ほどの大物政治家が殺害されたという大事件なのであり、これだけの国

民的関心事になっている以上、何の見解も示さないとすれば、**岸田氏は、首相としても自民党総裁としても、完全に失格**である。

しかるに、岸田氏が不可解かつ無責任な沈黙を守る一方で、その周囲からは仰天すべき発言が出てきている。

その筆頭は、安倍氏の実弟である**岸信夫**防衛相の7月26日の発言だ。岸氏は「付き合いもあり、選挙の際もお手伝いをいただいている。電話作戦等々、ボランティアでお手伝いをいただいたケースはあると思う」と統一教会との関係を公然と認め、「統一教会に手伝ってもらったというよりは、メンバーの方にお力をいただいたということだ」と、安倍氏の「募ったが、募集はしていない」をほうふつとさせる言い回しを披露した。そして、今後の選挙で支援を受ける考えはあるかとの問いには「選挙ごとにお話があること。次の選挙でどうなるか、軽々に答えることはできない」と答えたという。

要するに、**岸氏は統一教会との関係を断つつもりはない、言い換えれば、統一教会に関して何も思うところはない、と言っているに等しい**。繰り返せば、これは「統一教会への恨み」によって実の兄を殺害された人間の言葉なのだ。日本の保守政界は北朝鮮並みかそれ以上の世襲の世界だと言われるが、特権としがらみによってがんじがらめになった環境に身を置き続けることで人間的感性までもが破壊されてしまうのだとすれば、これほど恐ろしいことはない。

そして現在、マスコミ各社やジャーナリストが統一教会と自民党の癒着に関する新事実と歴史的事実を続々と掘り起こしているが、それらの事実は関係の深さと広さを明らかにするものばかりだ。そのなかで、岸田氏は沈黙を守ったまま、安倍氏の国葬を強引に進めようとしている。」

国葬の法的根拠の問題や違憲の疑いもさることながら、このイベントの政治的作用、したがって政権のもくろみはあまりに歪んでおり、また見え透いている。それは、**自民党が反社会的行動により大量の被害者を生み出しているカルト団体の庇護（ひご）者であったのではないか、といういま多くの国民が抱いている疑念に蓋（ふた）をすることにほかなるまい**。**国葬の大騒ぎにまぎれさせて、自民党と統一教会との関係の問題、そして安倍氏の政治家・首相としてなしたことが国家的顕彰に値するのかという問題をすべて水に流してしまえ、という岸田政権の姿勢は、どれほど非難しても非難し足りない**。

とはいえ、**岸田氏は統一教会と自民党との関係に関し、何も言えはしないだろうとも私は思う**。なぜなら、この問題は、その歴史的経緯（岸信介氏と文鮮明氏との密接な関係を通じた教団の日本への浸透を端緒とする）と近年「1強体制」の主として絶大な権力を誇った安倍氏と統一教会との関係からして、自民党の過去から現在にわたる支配の正当性を

直撃するであろうからだ。反社会的行為を繰り返すカルト集団に依存し、持ちつ持たれつの関係を長年維持してきたことを、誰が正直に言えようか。かといって、「無関係である」と言えば、次々にその反証を突きつけられるであろう。つまりは、八方ふさがりなのである。

実に、**安倍氏の殺害事件は、戦後の保守支配政治の根底にある闇を表に引きずり出した。「反共」のためならば、どんな相手と組んでもよいし、どんな手段を使っても許されるという米日支配勢力が設定した「倫理基準」**は、共産主義の脅威が現実的でなくなってもなお生き続け、「反共」位置には「権力維持」が代入された。岸田氏の沈黙はこのことの巨大なツケを言外に言い表している。

ここまで腐敗しきった権力を日本人は支持し続けるのだろうか。そうであるとすれば、それは日本人一般が一種のカルト信者であることを意味するものでしかない。